

みちのり

シリーズ⑤

川上茂さん（1938年香川県生まれ）

日本人なのに、なぜ自分の意志や判断で帰国できなかったのか

1945年春、6歳の時、両親に連れられ弟、妹と共に黒竜江省勃利（旧満州）に渡りました。父が「青少年義勇軍」訓練所の教官に赴任した為です。

終戦間近の8月、私たちは車で父と別れて汽車に乗りました。途中、汽車は爆破され、山道を歩いて逃げました。道端には人や馬の死体がありました。何日も歩き続け

ある日、母がおんぶしていた妹を下ろすと、いつのまにか妹は死んでいました。妹は1歳でした。妹を山中に埋めた後、牡丹江にたどりつきまし

た。私たちは疲労と恐怖でいっぱいでした。

母の死

母は自分の食べる分を私たちに与えて歩き続けたので、体力は限界に達していました。9月20日、母は病院のような建物で、畳の上に座って壁にもたれて目を閉けていました。目に涙を浮かべて私と弟をじっと見て座ったまま死んでいきました。まもなく李さんという方が饅頭の入った籠一つ



川上茂さん、中央公民館教室で

と引き換えに私と弟を連れて行きました。牡丹江で、弟は李さん宅に、私は隣の郭さん宅に預けられました。間もなく弟は亡くなりました。弟は5歳でした。私は一人ぼっこの孤児になりました。

孤児になって

養父の郭さん宅では3食たべさせてもらい少しずつ体力が回復してきました。しかし暫くして、養父は土地解放問題のトラブルで撃たれて死にました。突然夫を失った養母は「お前のせいで死んだ」と言っていて死んだらあたるようになり、草刈、食事の手伝い、牛馬の餌やりをさせられるようになりまし。寝小便をした時は、叩かれ、裸で冷たい地面に立たされました。共産党の政策で養母の

回に参加し、川上家の長男であることが判明し、シベリアに抑留された後、帰国していた父と再会しました。

新族が身元保証人拒否しかし帰国に際しては、家族が身元保証人になることを拒否したので、戻ってきて言葉の問題、生活習慣、文化の違いがあり、不景気で就職もむつかしく家族では支えきれないという事でした。

「故郷に帰りたい。長男として親孝行したい」という思いで一杯でしたが、当時は親族の保証人の承諾がなければ帰れません。その後、日本での財産権を放棄することや家族の承諾が得られ、89年、50歳でようやく帰国できたのです。

日本人なのに、なぜ自分の意志や判断で帰国できないのか。国の制度に怒りを感じています。

今後に向けて

今は尼崎日本語教室や夜間中学に通い、日本語を楽しく学び、多くの人との交流もあります。苦労もあつたが昔は昔、今は今でわかってきたこと、今と思えます。そして、現在の平和で落ち着いた生活を大切にしたいです。（杉本利一）

学習者の紹介

梅グループの江田徳華さんを紹介。江田さんは1945年生まれ、中国残留日本人孤児（梅組の江田秋子さんの配偶者です）。

Q 一つ日本に生まれまし

たか？

A 86年に妻と息子二人で遼寧省丹東から来た。

Q 日本へ来たときはどんな気持ちでしたか？

A 言葉とくらしの不安でいっぱいだった。それで中国では夜に日本語を習いに行っていた。

Q 日本に来て生活はどうでしたか？

A 1年目は、きれいで、挨拶もして、とてもいい国だと思った。二年目に年金のことが心配になってきた。それですくく仕事をし

た。月々金は鉄工所で働き、

Q 日本語教室はどうですか？

A 楽しい。教室では、難しい言葉より毎日よく使う言葉を習いたい。長い文より短い文を習いたい。

いつも大きな声と明るさで周りに笑いを振りまいて江田さん。実は中国では調理も学んでいたとのこと。家庭でもその腕前を存分に発揮されています。（山本育子）



自宅の台所に立つ江田徳華さん

中国の旅 シリーズ②

長春（新京）



満州事変から約半年後の1932年3月1日、傀儡国家満州国が建国された。その首都にはそれまでの南満州鉄道の北の終着駅、長春が選ばれ、新京と改名され、大規模な都市が建設された。私は09年7月、49年頃この町で働いていた小林さんとこの町を訪ねた。駅前には大和ホテルがあり、道路は街の中心を貫いて南へ大同大街（現・人民大街）が通り、西側の順天大街には新宮殿（建築

中だった）を起点に満州国の政府機能である官庁街が向き合っており、国務院、司法部、軍事部、經濟部、交通部が並び、当時八路軍（通称）に留用されていた小林さんは、軍医大学の外科病院となっていたこの経済部の建物の1階で購買の仕事をしていたという。これら建物は今は吉林大となっている。

中国様式の他、西洋風様式も取り入れ、大陸の五族協和

50万人の大都会となっている。（宗景 正）

【参考文献】観光コースでない満州（小林慶二・福井理文）・高文研、植民地建築紀行（西澤泰彦）

王道楽土の国の首都にふさわしい街として考案されたこの街の中心に異様な建物が建

吉川弘文堂（旧関東軍司令部は撮影不可のため掲載できません）

交流の広場

秋のぶどう狩り

10月15日、小雨の中、奈良との県境、三重寄りの盆地に広がる「青蓮寺湖ぶどう園」へぶどう狩りに行きました。参加者は56名と大



ブドウ園に集合

人気で、バスは超満席。JR尼崎駅から約2時間

に到着しました。「食へ放題」と言われても一房食べるとほぼ満足。甘そうな実を選んでとり、40分間思い思いに楽しみました。

（越智徹）

秋の旅行に行つて

今度行った場所は三重県青蓮寺湖のブドウ園です。2時間余りの行程は笑った雰囲気の中でいつの間にか過ぎた。ブドウ園は山の斜面に沿って多くのブドウの木があった。甘くて美味しかったので満足でした。次に行ったのは組み紐センターです。伝統

の手工芸技術を勉強するのは難しいけど、みんな一生懸命頑張って作品を作りました。大切に持って帰りました。帰りはバスの中で楽しく歌いました。疲れも感じなくて、バスを降る時お土産のブドウをもらって喜んで別れました。バラ組 山崎 忠

主な行事

10月15日 バス旅行

11月10日 絵画教室
中国語おしゃべりサロン

12月8日 生け花教室（クリスマスを彩る）
中国語おしゃべりサロン

絵画教室

モチーフは秋の味覚「秋刀魚の開き」

11月10日、1匹1匹の顔やカタチが違う秋刀魚を見ながら、真剣にスケッチ。時間が経つとモチーフの秋刀魚が少し乾いてきて、シッポがピンと上向きになってきました。するとシッポの筋のような模様が鮮明になるのです。まじまじと見つめ、じっくり書き上げました。

出来あがった作品もハンサムなサンマ、鋭い目つきのもの、いかにも美味しそうなお色々々でした。描き終えたモチーフはさっそく晩のおかずになりました。ご馳走さま。（松本康子）



2013.11.10 王素坤

王素坤さんの描いた「秋刀魚の開き」